

「研究助成基金」成果報告書

-感性言語化データ採集ワークショップ-

政策・メディア研究科 福島宙輝

1. 活動日程

平成 27 年 1 月 4 日 - 6 日

2. 場所

高知県高知市

3. 活動の成果

本ワークショップでは酒造会社の協力のもと、被験者に対して飲料を提供し、その味覚を言語化してもらうワークショップを開催した。各被験者の発話はボイスレコーダーで記録した。ワークショップにおいて採取した言語データは、文字データに書き起こした上でコーパス化した。

ワークショップ時には申請者の過去の研究成果である「日本酒味わい関係図式」を利用し、日本酒の特徴的な味覚を言語化することを求めた。この際には、申請者の現在の研究対象であるオノマトペ及び音象徴語を活用することを求めた。

ワークショップによって、味覚表現においては音象徴語が有効であること、及び経時的な変化が表現されるべきことが示唆された。とりわけ音象徴語については日本酒の中でも甘味・旨味・酸味で活用されることが多く、日本酒にとって基本的な味覚の表現に活用されることが示唆された。

経時的変化についても音象徴語が有効であることが示唆され、二次元図式で描画された「日本酒味わい関係図式」については横軸を経時変化、縦軸を味の強度として描画することが有効であると示唆された。

4. 今後の展開

本活動ではこれまでの研究内容に対して専門家を含めた意見交換ができたものの、被験者数が少なかったため、今後は被験者数を増やし、発話コーパスの質・量を充実させるとともに、日本酒味わい関係図式をより妥当性の高いものとしていくことが求められる。